

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 258

2005年 3・4月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



世界にはばたく学生を育てたい

中西久枝国際開発研究科長

名大生協のホームページ (URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

主張「卒業生を元気に送り出し、新入生を温かく迎えよう」―― 3	
【インタビュー】	
学問の魅力、学生、生協への期待―研究科長へのインタビュー⑩	
中西久枝国際開発研究科長――	4
【報告】	
名古屋大学平和憲章制定 18 周年記念企画・憲法講演会	
「今こそ憲法・教育基本法に根ざした教育改革を」――	14
教職員委員会の活動日誌――	28
【記事】	
ニュースに一喝！「ゆとり教育と学力低下」「アラファト議長	
―その蓄財」「あってはならないこと」――	16
新フィールドノート―その 87―「岐阜羽島」――	18
魔言「国際災害年」「センター試験監督」――	20
ひとりごと「ライブドアの日本放送株取引に思う」――	24
かけはしの輪――	22
アンケート・クイズ解答用紙――	26
CO-OP QUIZ<Logic>――	27
【送別特集】	
それぞれの思い出―退職される教職員の方々から―	
「名古屋大学の思い出」大森和彦――	I
「名古屋大学に在職中の名大生協の思い出」小倉豊――	II
「言葉をまなぶ楽しみ」小栗友一――	III
「基礎科学の研究・教育に関わって 45 年」金丸信明――	IV
「“マドンナ” と過ごした 25 年間	
―名大生協北部書籍部での交流記―」北川勝弘――	V
「名古屋の生協の思い出」北原淳――	VI
「動物との出逢い、人との出逢い」後藤明光――	VII
「頑張れ！名大生協」田中宣秀――	VIII
「退職にあたって―生協の思い出」長谷川勝男――	IX
「食の安全と安心」宮田正――	X
贈る言葉（福家俊朗名古屋大学消費生活協同組合理事長）――	XI

主張

今年は暖冬と言うことでしたが、例年になく日本海側では大雪が降り、寒さも半端じゃない感じで朝晩を中心に寒い日々が続いています。早く桜が咲く季節が来てほしいと待ち遠しいこの頃です。

さて、3月は巣立ちの時です。名古屋大学に入学して4年間ないし6年間、勉学に勤しみ、友を作り、旅行したり、免許を取ったり、実験や研究したりしながら大学生活を送ってこられたと思います。生協のお店では、本や教科書を購入し、昼食や夕食を食べ、勉学用品や趣味のものなどを買う、旅行や観劇などのチケットなどを手に入れて楽しんでこられたと思います。

それももうすぐおわり、激動を迎えている社会に入っ

ていくわけです。名古屋大学で学んだことを会社や地域で実践していくことになりま

かり言い合えた時代だったそうです。それにものもお金もなかったが、心と心が通い合えたとも言っておられます。それから30年後の現在は

が温かく迎え、不安のない大

卒業生を元気に送り出し、 新入生を温かく迎えよう

いろいろな必要なものを準備し、お祝いをしたいと張り切っています。

今、日本経済はなかなか不況の中から脱することが出来ていません。ちよつと良くなつてはまた悪くなるを繰り返している状況です。

教職員にも名古屋大学を去られる方がおられます。昔はいいこと、悪いこともしつ

けでしょうか。卒業生には人間関係を本当に大切にしてくれからの日本を背負って立つ気概で頑張っていたきたいとエールを送ります。

4月に入ればまた新入生が入ってきます。大学受験の難関を突破してきた青少年たちです。また大学院への進学生も相当数おられます。我々教職員も含め、学生の先輩たち

生協では、南部食堂を会場にアパート・下宿の幹旋や生活用品、勉学機器および家電、音響製品の提案、学生たち相互が助け合う卒業までの学生総合共済などを準備して張り切って大学生活をスタートしてほしいと望んで頑張っています。上級生達も入学手続きや生協ガイダンスなど新入生歓迎の準備をして張り切っています。

我々教職員は定員削減の影響で、助手の方は別として特に若い職員は入ってこない状況が続いています。法人化されても改善されそうにありません。組合員の皆さんには、周りに新しい方がお見えの時はぜひ名大生協のお店を紹介していただき、生協に加えて楽しく大学での勤務をされるよう勧誘をよろしくお願いしたいと思います。

学問の魅力、学生、生協への期待

— 研究科長へのインタビュー ⑩

中西 久枝 教授 国際開発研究科長



(1月12日 国際開発研究科長室にて)

中西久枝(なかにし・ひさえ) 教授

大学院国際開発研究科長(国際協力専攻)

【現在の専門分野】

中東現代政治、ジェンダーと開発

【現在の研究課題】

冷戦後の米国・中東の関係、紛争後社会の復興開発支援を
ジェンダーの視点で捉えること

生協の「学章」商品

今井 中日新聞に掲載された名大サロンの先生の記事を拝見させていただきました。

中西 ありがとうございます。

今井 まず、記事でも紹介されていましたイランの女性の問題と

か、政治の問題とか、先生のご専門である中東現代史というようなお話をお聞きしたい。二つめは名古屋大学の学生に対するご意見、こうあって欲しいとか、そんなお話をお聞きたい。最後は私も生協も50年以上経っておりまして、また法人化2年目として、今までの形を大切にしながらも、求

められる大学にふさわしく環境にやさしい生協づくりをしたいと考えているところですが、そのためにいろいろなご助言等、戴ければ幸いです。お忙しい中どうもすみません。

中西 いいえ、こちらこそよろしく願います。

今井 きょうは生協が提供してい

る学章商品というものを持ってき

ました。これまでもずっとアルバム
の制作をやってきましたが、その
アルバムに掲載する写真でポスト
カードをつくってきました。今年
は、そのポストカードの写真を一
新しました。また同じように新し
くカレンダーも作りましたので。

中西 そうですか。私はアメリカ
のカリフォルニア大学 (UCLA)
に6年間いましたが、UCLAでも
こういうポストカードをたくさん
生協で売っていました。特に留學
生が本国に帰るときに持って帰っ
たり、日本人観光客がよく買った
りしていました。

今井 大学にもこの写真のネガを
提供したりするんですよ。

中西 そうですか。

今井 これは食べ物ですけど、2
年前から作っている名大コー
ヒー。また、お菓子のゴーフルと
いう煎餅を……

中西 これ、南部生協にもありま
すか。

今井 ございます。ほかにも学章
商品を、何か考えてほしいと総長

先生から言われています。先日、

留學生課の職員の方から「注文が
ありまして、学生の要望もありま
すが、総長がお会いになる外国の
お客様に対して差し上げられる物
が、もっとほかにはないのかと
……。先生もおっしゃったよう
に、外国ではいわゆる大学のブラ
ンドをきちんと商品にしています
ね。

中西 そうですね。

今井 そういう商品の開発を手が
けようかと考えています。例えば
手拭いとか、名大のワインとか、
枕とか――京大には枕があります――
そんなものを……

中西 学生向きでしたら例えばカ
レンダー付きの手帳とかいいです
ね。コンパクトな手帳で名古屋大
学の行事が書き込まれているよう
なものとか。

今井 ああ。

中西 スケジュールブックって言
うのでしょうか。UCLAでの学生
時代、よく使っていました。それ
を見ると一学期がどこで始まって
どこで終わるかとかすぐ分かりまし

た。行事予定表が載っていたので
便利でした。もちろん休日祭日も
載っていますし、例えば名大祭が
いつあるのかもわかるようなもの
がいいですね。

今井 実は、今、私どもの名大手
帳もあるんです。

中西 そうだったんですか。失礼
しました。

今井 作ってはいませんが、作り始
めるのが早くて10月から11月にか
けて作り始めます。いま全国の連
合会というところで、作っている
ものですから。そうすると、次年
度の学年歴の確定が、たぶん11月
でも決まっていけない。そこにシー
ルを貼るとか、そんなことも考え
られますが、手帳にはいわゆる機
動性とともに、おしやれさがなく
と、なかなか難しいのかな、と……

中西 そうですね。今の学生は全
部ケータイに登録しちゃうんです
ね。

今井 貴重なご意見として、お伺
いしました。じゃあ、あとはうち
の加藤のほうから……

にやっておられます研究の中身
に、読者の方も大変興味を持って
いらっしゃるようですので、先生
の今の研究課題とか、歴史につい
て、また一般の方や、私たちの社
会生活とどんな関わりがあるかと
か、そのあたりから最初お話し
ただければと思います。

中西 私の研究内容のあたりから
でよろしいでしょうか。

加藤 はい。

中東の研究を始めたのは

中西 私が中東の研究を始めまし
たのは、学部生の頃からです。私
は大阪外国語大学のインドパキス
タン語学科という学科に入りました。
そのときから既に問題となっ
ておりました、民族紛争に関心を
もっていたからです。たとえばカ
シミール問題という民族紛争はな
ぜ起こるのかと思います。大学も学部
も選んだわけです。最初から問題
意識がかなり限定的なものだった
んです。

私が大学の一年か二年の頃にイ
ラン革命が起こりまして、それで
なぜ今どき宗教革命なるものが起
こるのかということ、それから20
世紀に起こった革命の中でも、一
番大衆動員力――実際革命に参加し

民族紛争はなぜ起こる、という関心から インド・パキスタン語学科に……

た人の数が多いという、大きな革命であったことから、人々をそれほどかき立てるものは何なのか関心を持ちました。それでインドパキスタンという地域だけではなく



【写真】インタビューに答える中西研究科長（右）。名大生協今井専務理事（左）、同加藤理事室長（中）（1月12日、国際開発研究科長室）

て、イランを中心とした中東全体にも目を向けていきたいという想いが出てきて、徐々に地域を広げていったわけです。

現在進行中のことも一つの歴史現象として

その頃日本では、西アジアとか中東地域についてはあまり研究が進んでいないという状況でした。日本ではまだ中東研究というのが、外国語大学を中心に語学から入っていくか、歴史の畑から入っているかのどちらが多かったのです。私は語学から入った人間ですが、私が勉強したかったのは政治であったり、歴史であったりしたので、そうしたものを勉強するのに、語学中心の地域研究的にやっていくというアプローチだけでは満足できずに、留学を考えました。もちろん日本にも、例えば東京大学の東洋史であるとか京都大学の東洋史というものがありませんが、日本で歴史と言え、戦前のものではないと歴史ではないという考えがあり、現代史は、歴史としては扱ってもらえないということがありました。私は、現代史に興味があったのです。

命の研究などという国際政治学や社会学などという分野ではないかと考えられたわけです。私は現在進行中のことも一つの歴史現象として見ることはできると思っていました。それはひとつの歴史解釈であると思います。あるいは政治学と歴史学を組み合わせた、今のことばでいえば、いわゆる学際的領域という研究方法はないものかと考えていました。

アメリカ留学

現代をやるのであれば、当時中東に一番影響力を与えていたのはアメリカでした。それでアメリカに留学を決めました。同時並行して神戸大学の法学部の国際関係論の博士課程にも進みまして、そこで政治学を勉強していた時期もあります。最終的にはそこも中退しましたので、外国語大学の修士課程を終えて以降はほぼアメリカで勉強していたという感じです。そういうことから私は中東研究を始めたのです。でも、同時多発テロが起こるまでは、中東の問題が私たちの生活そのものに大きな影響を与えるとは誰も真剣に思わなかった分野だったと思います。同時多発テロ以降、中東に関する認識も日本人のあいだでもかなり変わってきたと思います。一つは同時多発テロを起こした主犯者がサウジアラビアという中東出身者であること、それからアメリカのブッシュ大統領が最初に、「これは十字軍だ」と言ったように、イスラムとキリスト教社会の宗教対立から今回のテロが起こっているのではないかという報道が9・11事件後相次いだことに起因しているようです。あまりいい構図ではないのですが、メディアの中ではどうしてもイスラムとテロが結びついた感じで報道されます。でもそうしたある種歪んだ報道ゆえに、みんな関心をもつようになり、本当にイスラムはテロリストを生む宗教なのかとか、それではイスラムそのものの本質はいつたいどうなっているのだろうかなど、一般市民の関心が強まってきたと思います。

実は同時多発テロ以前にも、日本人が中東に関心を向ける機会はありませんでした。例えば、石油ショックの時も話題になりましたし、湾岸戦争の時も話題になっていました。でも、イスラムというものは本来どういふものだろうかというところから掘り下げて異文化理解をしてみようというスタンスはほ

とどろなかつたわけです。しかし

9・11以降、かなり変わってきま
した。単に石油がある中東という
認識でなく、そこに生きている人
たちは、例えばアメリカが空爆し
てくるときにアフガニスタンの人
たちが何を考えているのか。イラ
ク戦争でイラクの人たちはどうい
う立場から世界を見ているのだろ
うかと、人々に関わる次元、あ
るいは宗教そのものに関する関心
といったところまで目を向けたと
いうのは同時多発テロ以降ではな
いかと思います。そういうわけ
で、9・11以降の中東に関する関
心への高まりのために、講演を依
頼されることもすごく増えまし
た。時間の許す限りそうした要求
に応えるように、自分の研究の一
端をお話しようといういろいろ活
動しています。

何をもちえてイスラム的な考
え方ととらえるか……

加藤 なかなかわかりにくい世界
なので、少し具体的な話をいた
だきたいのですが……。実際に先生が
研究されてきた中で、今問題提起
されたようなイスラムだとか中東
の人々の考え方は、僕らが理解し
やすいようにするとどんなふう
に表わされるものですか。やはり直
接話してみないとわからないの
でしょうか。

中西 中東の人々のものの見方
ですか。

加藤 はい。イスラム的な価値と
いうものが我々とうとう違うか。留
学生の方もいらつしやるとしま

すが、なかなか直接お話ししない
ので……

中西 何をもちえてイスラム的な考
え方ととらえるか。よくされる質
問ですが、非常に難しい質問で
す。例えばイスラム教徒はインド
ネシアが世界で一番人口多い。続
いてインド、バングラディシュ、
パキスタンとなり、ずいぶん文化
的に社会的にも違う世界です。そ
れからアメリカには800万人の
イスラム教徒がいますし、その倍
の1600万人がヨーロッパに住
んでいるという状況です。中
東はイスラム教徒ということでは
ありません。そうしますと、中東
に住んでいるイスラム教徒とアメ
リカに住んでいるイスラム教徒の
接点は何なのか。どれをもつてイ
スラム的な価値観と呼んでいるの
かというのには非常に難しいと思
います。ですからこれから私が申し
上げることは、必ずしもイスラム
的な価値観と言えらるかどうかは、
かなり地域を限定していかない
と言えない話です。それを前提と
してお話すれば、家族の絆とそれ

ら血縁関係、それが非常に強い社
会であるということが言えると思
います。

ヴェールと女性の地位

ですから、女性の地位というも
のも、結局ヴェールを被ったり被
らなかつたりという問題も、やは
り誰の子どもであるかを明らかに
することが、家族にとつての問題
でもあるし、血縁全体、親戚も含
めた全体の重要事項になるわけ
です。ですからなるべく婚姻関係に
因らない男女は普段から個人的に
会わない方が望ましい。そうした
考え方の下にヴェールがあるわけ
です。ですから、ヴェールは必ず
しも女性を隔離するとか、社会に
出さないとかいうものではなく
て、その社会において非常に本質
的な問題である家族関係の維持と
か、血縁集団というものをどう守
るかということから生まれた一つ
の制度であるわけです。そういう
意味で家族の絆とか血縁集団の
絆というものは非常に強い社会
だと思っています。

ヴェール家族・血縁集団の絆を守るもの 時には女性の社会進出に通じる

それからもう一つ、ヴェールの
考え方から派生する問題と言いま
すか、その根本にある問題です
が、男性と女性の役割というもの

女性は今世代を育てる重要な役割

女性は今世代が守らなくてはならない存在

が、女性は子どもを産む性としての女性というものがあります。もともと女性は子どもを産み、次の世代を生み出していくという、そういう性だという位置づけがあつて、それに基づいた役割というものがまず優先されるべきである。ですから、男性の役割と女性の役割というのは神の創造物としての人間という立場からすると、もともと違うものだということから出発する。これがイスラーム的な価値観の根本にあると思います。ただそのように考えると、よく、女性は子どもを産み、育てさえすれば教育も仕事もなにもないのかというように、女性の社会進出は無いのかというように捉えられてしまいがちです。そこは、実は非常に誤解されているところで、逆に女性は次世代を育てる非常に重要な役割があるという価値観があればあるほど、例えば女性が大学の先生になり、教師をやるときには子どもを預ける施設がなければならぬということになり、保育所施設を続々整備する

女性に優しい社会

ということがイスラーム社会では起こっています。むしろ日本以上に、専門職を持った女性は子どもを保育所施設に預けて仕事ができるという状況にあります。次世代を育てるという女性の役割に対する社会的認知はたいへん高く、それゆえ、女性が社会で仕事をしやすいような社会的環境整備を要求する声はイスラーム世界でもよく聞かれます。そして、それを整備することこそがイスラーム社会の証しだという言説から、結構簡単に整備が進むという状況もおこっています。

またイスラーム世界には、女性というのはいかに肉体的に男性に比べて腕力が劣るという考え方がありますので、女性保護の考え方が強くあります。アメリカのフェミニズムの立場からいきますと、例えばドアを開けてあげたりすると女性差別だと言ったりするフェミニズムもいます。別に開けてくれ

イランとイラク

戦争というように私自身は思い描いていたんですけど、でも同じ世界ですよね、中東世界ということでは。

中西 中東世界と言ってしまうとそうですが、ただイラクはアラブで、イランはインドヨーロッパ系です。ですから言語も違いますし、民族も違います。同じイスラームでもイラクはスンニ派が政権を取っていたわけです。実際にはイラクでも人口的にシーア派の方が多いいのですが、フセイン政権がスンニ派であることからスンニ派政権だったという歴史があります。一方イランの方はシーア派が人口の9割を占め、シーア派の聖職者が政権をとっています。イラン・イラク戦争の理由というのは政治的な内容が多く、単に宗教的な違いということだけではないのです。イランとイラクについていうのは、同じ中東ですが、言語も民族も違うということで、明らかに違う世界です。

今井 あまり知識が無いんですが、イランとイラクってというのは名前も似ているし、イラン・イラク戦争とか、それもやっぱし宗教

今井 最近起きている中東のいろいろな状況の変化、対立の構図をどうとらえたらよいでしょうか。宗教的な対立だけではなく、かなり政治的な思惑、経済的な思惑、その中で対立の構図があるような気が私していますが……



中西 宗教的な側面もあります。が、それだけではないです。政治、経済的な問題の方が大きいと思っています。アメリカの「中東拡大構想」というのがありますけど、その考え方というのも、中東を民主化しようという流れですね。じゃあ、アメリカにとって民主化することの意味は何かと簡単に言ってしまうと、アメリカにとつ

て付き合いたい地域にしたい。アメリカがなぜ付き合いたい地域にしたいのかと言うと、中東に対する石油利権の問題であると考えます。なぜイラクに戦争を仕掛けていくのかという理由は、やはり石油に対するアメリカの執着、またパレスチナ問題との兼ね合いでやはり政治経済的な背景が強いところで、現在の紛争が起こつて

いると思います。

対立の背景は

加藤 日本に住んでいると、近所の人が殺し合うなんて全然想像が付きません。マスコミのせいかもしれないませんが、内戦なんているのかはどうしてあんな風になるのか。なつて率直に思ったりします。ごく一部分だけをピックアップして

ラエル側が握っており、パレスチナ人は自分で水道を引くこともできないという現状があります。ですから、なぜパレスチナ人がイスラエルに対して自爆テロをおこすのかということも、単にそのジハードという宗教に狂つてテロを起こすわけではなくて、やはりイスラエル人は全く問題もなく土地の所有権もあるし水に対するアクセス権もあるのに、なぜ私たちにそれが無いのかという差別されてきた憤りという感情がたまっているわけですね。ですから、長い歴史の積み重ねで起こっている差別の問題が殺し合いに転化したのでしょうか。

中西 そうですね、なぜ隣近所の人たちとも争うのかという問題は、中では非常に複雑です。一つは長い歴史の中で憎しみあいというものが存在すると思います。憎しみあいが単に例えばイスラエルとパレスチナの問題のように宗教対立という問題よりはその裏にある土地問題、土地争いだったり、

それに加えて外からの力が加わるという面もありますね。例えば今回のウクライナの問題にしても、なぜユーシェンコが勝利できたのかといった場合、アメリカの一つの政策として、アメリカのそのO

水の利権争いだったり、経済的な権益争いということが非常に強いと思います。ですからある日突然隣の人とけんかをしたり争ったりするわけではなくて、積み重なった利権争いがあるわけです。やはりイスラエル―パレスチナ問題でも、水の利権はほとんどイス

を使いながらウクライナの市民に間接的に操作をするということが起こっています。それと同じようにパレスチナの過激派組織にしても外部からの資金が反対勢力側に流れるわけです。そうした外部勢力の影響というものも大きい。そしてイラクで起こっている米軍

異なる考え方を持つ人々の存在を知り、 異文化に対するものさしを増やす姿勢を

に対するスンニ派の反発といったものも、別にイラク人の力だけでやっていることではなくて、周辺諸国がスンニ派の力をこの際抑えておきたいというときには、逆にスンニ派をして米軍と戦わせて、バグダードのある中部あたりではかなり戦火を激しくしていくわけですね。そうするとスンニ派の力が相対的に劣るという契機にすることです。そして外部勢力の裏技というものも背後にはあると思います。

私たちの関わり方は

加藤 私たちからはどんな関わり方をしていくのが一番よいのでしょうか？

中西 一口では難しいのですが、中東の問題に限らず、世界がこれだけグローバル化してきますと、私たち日本人の価値観とは違った価値観を持った人たちが世界にはいるということをやや勉強していかなくてはならない状況になっていると思います。それは将来日本

も、例えば老後の問題、老人介護の問題でフィリピン人を導入しなくてはいけないという現実的な問題もありますが、そういう問題でなくても、社会がグローバル化すればするほど人の移動は激しくなるし、日本が国連の安全保障理事会に入ると日本の国際貢献とは何かと問われる時代になります。そうした中で、社会で起こっている出来事に対して決して私たちに無関係のことではないという認識を

持つことが必要ではないでしょうか。そうした理解の中で私たちが異なる考え方を持つ人たちが存在するということをまず考えていかなければいけない。自分がその考え方に賛成できるかどうか、自分はその考え方どおりにやるかは別として、そういう考え方があるということを認めるという立場に立たなければいけない。

私はイスラム世界のことを学生に教えたり、あるいは中東地域の

ことを学生に教えたりしながら自身で研究しています。私自身がイスラム教徒になることはおそらくないと思います。でもイスラム教徒の価値観というものを私なりに勉強し、こういう考え方があるというのを私たちは理解すべきではないかというメッセージを学生には伝えていきます。こうした異文化に対するものさしを増やす姿勢が今望まれているのではないのでしょうか。これは簡単なことなのでしょうか。これは簡単なことなのではないかなかできないことなのではないかな。やはりどうしても「あーいう考え方おかしい」といつも思うがちです。でも本当はおかしいと思うけれどもそういう考え方をする人がいるということを認めた上で、どこで折り合いをつけていくのか問題です。あるいは、そういう考え方をする人から見ると、日本人の生き方は逆にこういうところでは受け入れられないのかなという発想で物事を考えられるかどうか……

でも日本人は比較的他者に対する理解をしやすい民族なのではないかと思います。むしろ今問題なのはアメリカのような白黒はつきりさせる、イエス、ノー、1か0しかないというデジタル方式ですね。そうした発想からいうと、こ



れはいいがそうでないものは全部排除することです。そういう排他性に回ってしまいがちです。日本人というのはグレイゾーンの大きい考え方だと思えますので、それが他者に対する眼差しになるといいですね。

名大生、世界に飛び出せ

今井 名古屋大学に入ってくる学生の場合は、どうお感じになられていますか。

中西 実は大学院の授業が多いものですから、学部学生と関わる授業というのは今まで全学教育を通じてしかないんです。ですから非常に限られたことしか言えませんが、世界に飛び出して、いこうというところがちよっと名古屋大学の学生は弱いかなと思います。それは名古屋大学に來ている学生さんがこの周辺の出身の方が多いというところから発生していることなのか、それとも全国からも來ているのだけでも名古屋という

地域がある種の保守的な地域であるということからおこっているのか、そのあたりはわかりません。これだけ世界がグローバル化していきますと、自分の問題関心があるところに学生であればどんどん出て行って何かしてみようという動きがあつて当然だと思えます。実行力が伴う学生がやはり少ないのかと思います。問題関心はすごく高く持っているようです。でも問題関心を持っているということと、実際に留学してみるとか国際機関に行つて仕事してみようとかいうこととは違う。思い切りが足りないのかなと思います。

大学院生、広い視点を

加藤 研究者としては特に教育と研究があると思いますが、今大学院生にはどんなことを伝えようと思つていますか？

中西 大学院生に関しては、自分の論文のテーマであるとか専門分野ということだけに目を向けすぎますと、自分の研究しているテ

マが世界で起こっている様々な流れとか動きの中で、どの部分を自分がやっているのかという視点が逆に抜けてしまうことがあると思えます。専門性を高めるといふことは重要ですが、一方で自分の専門だけに囚われずにグローバルな視点から自分の研究テーマを捉えたときに、それは一体どういう意味があるのだろうかということが理解できるような研究教育をしていきたいと思っています。

英語で自己表現を

それから、英語で自己表現できる人材を育てることを考えています。これだけ国際的に競争力ある人材を作っていくためにはいいと問われている時代に、英語で自分の言いたいことを伝える能力を持たなければ、表現できないければその人は考えていないのと同じだと世界では受け止められてしまふ。私、留学時代にすごく苦労しまして、仲間の中で自分の意見が言えなかった。そうすると、この

人は頭が空っぽだと思われてしまふ。自分で思つていてもそれを表現することが出来なければ相手に伝わらないわけですから、自己表現が豊かにできるコミュニケーション能力を備えるということが大切です。ただそのコミュニケーション能力というの、単に自己表現の話では終わらずに、広い知識と洞察力、他人に対する思いやりがなければコミュニケーションというのはありえないわけですから、そうしたことを含めた人間力を養うことが重要な部分ではないかと思ひます。

加藤 国際開発研究科はこれで何年になりますか？

中西 この4月で15年目になります。留学生が半数の研究科です。で、先ほどなかなか外に羽ばたかないという学部学生の話をしてしましたが、ここの研究科の日本人学生は比較的どんどん外に出て行くばかりです。そういう意味では非常に頼もしい。

日常的に英語で授業を行つていて、留学生と日本人の学生がほぼ半々くらいですから、授業中に様々な複数の多様な意見が展開します。いろいろな国々の人と日本人と両方の交流ができる場であるということから、日常レベルでの

英語で自己表現できる人材を。コミュニケーションの前提は広い知識・洞察力・思いやり

組織力の集大成として名古屋大学がある 思い切った発言―女性だからできるのかな

国際交流というのが比較的实现している環境ではないかと思えます。

研究科―二つの目標

加藤 大学が法人化した中で、これからの研究科はどんな新しい方向を目指していますか？

中西 今二つの大きな目標で走っています。一つは、教育力リキュラム改革。既存の講座制の枠を少し取り払ったところで、時代のニーズに応えられるような教育プログラムを立てるというプログラム形式に今移行しようとしています。実施は平成18年4月1日ですが、この4月からその過程の一つのステップという形で試行出来ることからやっていくと思っています。

第二点目は、外部資金を導入するということが求められていますので、国際協力銀行と協力協定を結び、昨年の7月からチームを作って、学生交流から国際開発に関わる案件を受け入れながら開発

プロジェクトを実施するとともに、学生に対する教育を含めてやっていくことです。

また学生に対するインターンシップを推し進めることによって、研究協力の中にも実務家養成的な発想の教育も進めていかなければいけませんし、それから風通しを良くしていくということもあります。外部からいろいろな刺激を受けつつ、案件を受け入れながらやっていくということは、国際開発銀行が、例えばどのようなODAを実施しているのかということに対しては私たちも見識をより開かれたものにしていかなければならない。開発援助機関に対しても少し日本人はこういう方向にいくべきではないかという私たちの知見を活用した提言していきたいと思えます。昨年国際協力銀行と協力協定を結びましたが、今、国際協力事業団（JICA）との同じような協力関係も構築しようとしているところです。JICAは、社会開発を含めた幅広い事業を行っていますので、そういうもの

に対して私たちの知見を提供していきたいと思っています。

加藤 大学が市民に情報を開示したり、研究の成果を伝えるということをやっていると思いますけど、研究科でも外向きの活動を考えておられますか？

中西 公開講座を毎年開いています。それから今年は万博が行われ、名古屋大学の国際フォーラムが8月の6・7日に開かれる予定で、そのサテライトフォーラムを国際開発で企画しています。そこで地域社会に対して私たちの研究成果を伝えていくということ、その研究成果に対する地域社会からのフィードバックを私たちが受けるという企画です。

女性研究科長として

今井 ところで女性の研究科長は名古屋大学では初めてではないでしょうか。先生が研究科長になられてよかったこと、特に法人化前後の一番大変な時期にあって、どのような苦労や考えがあるのか

ということをお聞きしたい。

中西 大変だったということのほうが大きいので、そこから話しましょう。これは女性だからという問題とは別に、大学は法人化によってかなり体質を変えなければいけないという時期に来ています。私は40代ですけども、世代間の違いや個人差をあらゆる面で感じます。例えば、組織力を作らなければ法人化後、各部署は生き残れないでしょうし、組織力の集大成としての名古屋大学があると思うのですが、これまでの大学の体質というものが、個人がどういう研究業績を残すのかという個人ブレイクの発想ばかりだった。現在は組織全体のために何をするかという発想でいかないとだめな時期に立っていると思うのですが、なかなか先生方の発想が自己中心的と言いますが、組織力をあげるためにはこういう改革が必要だということに発想になかないけない。教育プログラムに關してもそうですし、外部資金獲得の問題でもそうです。そうしたものは別にやらなくてもいいじゃないかという声が上がったりします。新しくやろうとしていることに對する意見が、独法化という制度が変わっているにも関わらず、そして制度が変わっ



せるのかということ
ところが、今問われ
ていますが、そこ
が一番難しいところ
です。

今井 そうい
うことをおっしゃると
他の先生から言わ
れませんか？（一同
笑）

中西 私には恐
れるものがありませ
んの。それがあ

ていることに対して先生方の認識
がついていかない。ですから、教
員の認識や発想をどう変えていく
のかというところが一番大きいと
思います。それで非常に苦労しま
すね。

今井 これまでは個人集合体での
大学でした。

中西 そうなんです。でも今はそ
れだけでは済まされないとこ
ろにいます。一個人がものすごく秀で
るということは重要ですが、組織
としてどういう人材が生み出せる
のかとか、どういう研究を生み出

る意味では逆に研究科長をやっ
ていてよかったこととなるのかわ
かりませんが、結構女性のほうが
まり保身とかにこだわらずに仕事
が出来ますよ。これはたぶん男性
差別だと言われてしまうのですが
。ですから、思い切った発言が、
私が女性であるが故にし易いのか
なと感じております。

加藤 国際開発研究科ではたく
さんの留学生を大学院生として受け
入れていらっしゃる。特にそ
れらの方の便宜を図るために努力
されていることなどがあればお話

を伺いたいと思います。
中西 チューターとして留学生に
も活躍してもらっています。そう
いう点で日本にスムーズに適應で
きているのだと思います。留学生
が多いため、ふだんの授業は7割
以上が英語で行われており、活発
な議論ができるように促していま
す。

名大生協への注文

加藤 最後に名大生協へのご意見
をお願いします。

中西 他の大学の生協に行ってよ
く思うのですが、食堂のメニュー
をもう少しおいしくしてほしいと
いうことですね。揚げ物が多く、
ヘルシーなメニューが少ない。私
が学生時代だった頃（20年前）と
ほとんどメニューが変わっていな
いように感じます。他の大学の生
協のメニューを研究していただ
くと、よりおいしいメニューを揃え
て頂けるのではないかと思います。
す。まだまだ女子学生の好みとか
はあまり影響されていない。男子

学生好みのメニューが多い。です
から女性から見ると、オシャレな感
覚というのが生協のメニューに少
ないと思います。女子学生のニ
ーズに応えられるような食べ物とか
を研究されるとよりよいのではな
いかと思います。特に女子大の生
協を少し研究していただきたい。

そのほか名古屋大学のTシャツ
など、大学ブランドを増やしては
どうでしょうか。Tシャツはす
にあるのでしょうか。あつた
としても女子学生が買いたいと思
うようなものは、これまでの生協の
発想ではなかなかむずかしいの
で、斬新でおしゃれなTシャツが
欲しいですね。また名大の場合、
商品の陳列が雑然としていて、見
にくい。神戸大学（六甲台）に行
たら、生協が明るくて陳列がきれ
いで素敵だと思っていました。

今井 参考にさせていただきます
す。長時間どうもありがとうございました。
いました。

・・・・・・

（インタビューは1月12日、聞き
手は名大生協・今井専務理事、加
藤理事室長。写真は箕浦常務理
事（全学技術センター）。文章の責
任は『かけはし』編集委員会にあ
ります。見出しは編集委員会が
つけました。）

研究科の授業17割以上が英語で

生協―女子学生のニーズに応えらるよう

名古屋大学平和憲章制定18周年記念企画

憲法講演会

「憲法」「教育基本法」「平和憲章」を 私たちの羅針盤に

全学技術センター 河合利秀

2月2日午後6時より、名古屋大学平和憲章委員会の主催で「名古屋大学平和憲章制定18周年記念企画」が開催されました。会場のIB電子情報館中棟1階011講義室（IBカフェの横）には、開始時間に合わせ、30名ばかりが集まりました。

第1部は、教育発達科学研究科教育科学専攻の植田健男教授による憲法講演会（今こそ憲法・教育基本法に根ざした教育改革を）（18時～19時30分）でした。

今日の教育論争は、「教育改革」に集中していますが、小泉首相の目指す改革の方向は私たちの望むものとは全く異なるものであることがわかりました。日本の将来を考えるならば、ごく僅かの指導層を担う数%の「優秀な子ども」を選抜して英才教育を施す半面、そのたの大多数の子どもへの教育にはできる限りお金をかけないようにする、これが小泉教育改革の正体であるということです。

教育基本法は、全ての子ども

が日本という国の主体者として人間として成長できることを求めています。しかし、管理教育によって先生も子どもも息苦しい状況に追いやり、人格を育てるのではなくテストの点数だけが全人格のように扱われ、点数の低いものは学校教育から完全に落ちこぼれてしまふ。そして「心のノート」のように、心の

中までも点数化され半ば強制される。これが教育基本法があってもなお押し進められようとしている教育の実態です。もし教育基本法の基本的理念や視点がなくなってしまうと、事態はもはや救いがたい状況に突き進んでいくことでしょう。

私たちの子どもを、このような棄民に等しい教育制度に委ねたくはありません。いま大切なのは、教育基本法の基本理念に基づいた教育こそ、誠実に実行することである。そしてこれこそは、私たちの求める「本物の教

育改革」であるという確信を、植田先生の講演から強く感じることができました。

私たち大学の教育も同じです。教育基本法という人格の教育を大切にしなければなりません。最先端の技術を自由に操る人材育成も重要ですが、そうして得られた巨大な科学技術をどのように使うかという問題をきちんと判断できる教養を身につけてもらうことはもっと大切だと思います。

その一つの解が「名古屋大学平和憲章」ではないでしょうか。





私たちは改めて平和憲章の目指すものを思い直す必要があると感じました。

第二部の交流会は名古屋大学職員合唱団の歌にはじまり、ほぼ1Bカフェを借り切った状態での感想交流会は参加者数も多く楽しい時間を共有することができました。この企画に参加した人(17名)全員が、互いの感想や平和憲章にこめた思いを披露

され、久しぶりに「ああ、仲間がいるんだ」という感慨を持ちました。

ちよつとお酒も入って、普段話したことのない会話が交わされる・・・こんな機会が、もつとあつていいのではないのでしょうか。

平和憲章制定18周年記念憲法講演会参加者の感想(4人)

○階層(教員1、職員1、院生1、無回答1)

○何で知ったか(ピラ2、組合のメール1、知人・友人1)

○平和憲章を(知っている4)

○講演会の感想

・他分野の研究者の方にも分かりやすい話だったように思います。大学改革と絡めてのお話でしたから、多くの研究者にもぜひ教基法「改正」問題を伝え、知ってもらいたいと思いました。

・中日新聞の日曜版で教員(小中高)の特集をやっていたが教員の高齢化や退職(集中的)によるお金が相当必要と書かれていた。教える側に若い先

生達が圧倒的に少ない状況も問題のように思える。

・おかしい質問をしている人がうざかったが、すばらしい話があった。

・現在進行中の改革が憲法・教育基本法を改悪・劣化させるものであり、人間的な自立を妨げ、学問の自由を損ねるものであることへの理解を深めることができました。憲法・教基法に積極的な意識の回復へ向えるように変えたいと思いました。

○講師・植田健男先生に一言

・教育基本法にはじめて触れたときの話を聞きながら多くの人々にその体験を語ってもらうような場所・機会があれば、と思いました。

・政府・自民党の問題のすり替えははなはだしい。国会答弁も二大政党化してまともな議論になつていない。やつぱり我々が小さな政党も選んで質問しないといけないと思う。

・人間が自分の体の主人公になることが自立、ということばには心がうたれた。人材とし

てではなく、人は人として発展する権利があると思い起こさせてもらった。

・ありがとうございました。自身と身近なところから「正気を取り戻す」ことを試みたいと思います。改革に受け身的になるのではなく、話し合いと合意の形成によって教育を営んでいけたらと思いました。

○名大平和憲章制定18周年についてひとこと

・たくさんの方が集まっていた安心しました。

・現在の大平の学生の政治はなれ、考えたり、話し合ったりすることがタブーになつてしまつていて現状をうれいます。高校生くらいになつたら、まして大学生なら自分の考えを素直に話せないといけないのではないか。

・今の情勢は悔しいしもどかしいですが、名大にて学べたことを幸せに思います。

○第2部感想交流会について

・たくさん参加してくれたので楽しくお話をされたし、思いを話せた。

ニユースに一喝!

ゆとり教育と学力の低下

最近、国際的に学力を比較したOECDの国際学習到達度調査の結果が発表されて、日本の15歳の子供達の学力が、前回2000年より低下したことが問題になっている。数学・科学は一位・二位から六位・二位へ、読解力が八位から十四位に落ちた。これがいわゆる「ゆとり教育」「学校五日制」のせいにされて色々議論されている。その中で、これを「ゆとり教育」の運用の誤りとする東大の松原隆一郎教授の記事が目についた(2004・12・20中日新聞)。

そもそもゆとり教育は、学力を削ってでも「生きる力」をつけさせようとしたものという。しかし、松原氏は学力と生きる力は二者択一ではなく、学力は社会生活に結びつけられなければ

生きる力にならないと言われている。そして、それを結びつける力が失われてきているのだという。つまり、実際に知識が生きないのだと。仰有るとおりであろう。まさにこれを昔から机上の空論と言って貶めてきたのである。このことについては、実際に子供達に仕事を何も手伝わせず勉強ばかりに熱中させている(?)ことからの弊害として以前から指摘されていることであるし、我々もそう感じる。

私が興味を抱いたのは、こういう事ではない。これを前提にして、氏が展開された運動部の礼儀作法のこと、また、最近試合で勝ち負けばかりが強調され、型や礼儀作法がないがしろにされていることを言われたのに合点がいった。

さらに、少し飛んだ話として結びに言われたことにいたく興味を引かれた。皇室女帝論はともかくとして、皇室が「日本文化」の守護者であるはずなのに、

何故テニスや乗馬なのか。松原氏は趣味で柔道の街道場に通っておられるそうだが、「柔道の乱取りは勝ち負けを競うが、型は日本人の身体作法の文化伝統を伝えている。柔道の型を演じられるような天皇で有れば、私は性別抜きに支持したいのだが」とあったのに強く賛意を表した。驥尾に付して言えば、昭和天皇は相撲を好まれ、自分も相撲を取られたという。今上天皇は今年初場所初日に皇后陛下と一緒に観戦なされた。さらに、目茶を言うと言われそうだが、こ

自身も相撲を取られて、国民に相撲は見るだけではない、実際にやるものだということを示していたのだと思った。

余分なことだが、その新聞の同じ紙面に週刊誌週刊ポストの広告があるのに目を引かれた。小沢一郎が「皇室の混乱」「小泉内閣は総辞職せよ」とある。記事の中身は何も知らないけれども、昨年来の皇太子ご夫婦のことを言うのだろうか、こんなことで内閣総辞職というようなことが仮にでもあれば、まさに戦前に逆戻りではないかと思った。小沢氏は評判は余り芳しくないが、割合まともなことを言う政治家と思っていたのに。

(田 2005・1・12記)

アラファト議長

ーその蓄財

昨年死去したパレスチナ独立闘争の指導者アラファト氏、その巨額投資のことが、年末の新

聞に小さく出ていた。アラファト氏がアメリカなどに巨額の投資をしていた実態をアメリカの

「ブルームバーグ・マーケット・マガジン」誌が報じている。8億ドル(約830億円)にものぼるお金が議長の個人的投資として有ったのであるから、ビックリした。その中から、ユダヤ人がよく利用するニューヨークのボウリング場の保有企業向けの投資も含まれていた。その保有企業が、そのことに「ショックと怒り」を覚えるとコメントしているが、読んで私も驚いた。

今年になってから、「パレスチナ 失われた10年 議長選、問われる『腐敗』」という記事が2回に分けて載った。見出しに、「裏切りの集金システム」「クレイ首相 分離壁工事に関与疑惑」とある(2005・1・7中日新聞)。アラファト議長も、イスラエルからパレスチナを分断しようとして、イスラエルが構築している悪評の高い分離壁を事も有るうに自治政府の首相の会社が、請け負ってやっているということを知らないわけがないが、クレイ首相のビジネスをアラファト議長は黙認し続けたという。一部のパレスチナ人は知ってい

るのだ。

2回目の記事には、「日本のODA流用か」「前議長 シャロン支持者とカジノ経営」と見出しが付いている(2005・1・9同)。日本の援助を含めてオスロ合意(パレスチナ暫定自治宣言)の後に本格化した国際援助もかなり私腹を肥やすのに使われたという。経済顧問だった人がアラファト氏と仲違いして、

あつてはならないこと

この頃、「あつてはならないこと」が余りに多すぎる。今朝の新聞、どっかの大学の、箱根駅伝を応援する連中が、ゴールで選手を迎えるために高速道路で移動したところが、事故で渋滞、やむなく、途中で降りて高速道路の路肩を走って見て見つ

かて車に返らされたというところが載っていた。それに関して、やっぱり、監督の立場にある人が「あつてはならないことだ」と言っていた。

こんなのは、実害はないし、

アラブ紙の報道で明るみに出た。

数々の苦難と試練を乗り越え不死鳥とも言われ、パレスチナ独立運動を指導してきたパレスチナの星も結局は一人の弱い、欲の深い人間だったのか。これを知って、アラファト氏を我が父のように慕っていた人々の思いはどんなものだろうか。

(田 2005・1・13記)

事情もよく分かる。目をつぶってやりたいところだ。しかし、建前としては「あつてはならないこと」なのだ。

それよりも、世の中で起こる多くの不祥事、何回も何回も、あつてはならないことだ、ありうべからざることだ、再発防止に努めるというコメントをなんとよく聞くことか。耳にたこが当たるとはこのことだ。銀行の調査妨害、病院の医療ミス、十倍も沢山の薬を飲ませたとか、人を取り違えたとか、よくもこ

う粗末な扱いをしたものだ。看護師が患者を殺したなどということは何とも言いようのないことだ。まさにあつてはならないことだが、それが起こる。政治家の不祥事にしても、警察の不始末にしても、もうならされてきたが、こう言ってわびて一斉に頭を下げる姿が目につく。仕方がない。NHKでも海老沢さんが謝った。日銀でもお札のすり替えで総裁が謝った。

あつてはならないことが何故起こるのか。それは建前に過ぎないからだろう。つまり、あり得ることだから起こるのである。なかなか難しいことだろうけれども、あつてはならない事ならば、構造的に「あり得ない」ようにする必要があろう。

こういう事を聞かなくていい世の中であつて欲しい。ただ、ウミは出し切らないといけないから、つき出す責任のある人々は一生懸命あら探しをして、謝らせてやって欲しいものだ。そういうことを根絶するために。

(田 2005・1・6記)

岐阜羽島

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

私は、この二年間、十月初旬の初秋から一月下旬の真冬にかけて、非常勤講師として岐阜県立看護大学に通った。新幹線の羽島駅から歩いて十五分かかる。名鉄を利用すると、名古屋駅で特急に乗り、一宮で急行に乗り換え、さらに笠松から岐阜羽島行きに乗り継ぐ。

岐阜看護大学は、創立して五年という比較的新しい大学である。学生数も一学年八十人と小規模である。図書館の書棚には、手あかに汚れていない本が詰まっている。看護関係のコーナーがおおよそ半分を占めるが、哲学から人類学、さらには環境科学関連の図書も並んでいる。名古屋大学の中央図書館のように、広くて、古めかしい蔵書が無限に感じるように存在しているのとは違って、興味の引かれる本がバツと目につく。名古屋

大学にはないものも多い。一例を挙げると、マトウラーナとヴァレラによる『オート・ポイエーシス』もその一つである。「オート・ポイエーシス」という概念は説明するのは簡単ではないが、生命を自立的で、自己言及的なシステムとして捉えようというものである。このオート・ポイエーシスという言葉を聞いて久しいが、この概念を提案した著者に出会えたのも看護大のおかげである。

私がこの看護大に非常勤として依頼を受けたのは、五年以上前、すなわち創立以前であった。森林に関する授業内容を重視していたことと、一般教育を重視するということで引き受けたのであった。実際に講義を始めたのは、看護大が出来て四年後であった。したがって、相手にする学生は、卒業を目前にした四年

生である。

ところで、話は変わるが、皮肉なことに、本務校である名古屋大学では、カリキュラムの改革によって、私の専門とする森林に関する一般教育の授業は消えざるを得なかった。名古屋大学における一般教育に関するカリキュラムの改革の特色は全学で責任を取る体制になり、少人数のセミナーを取り入れたことである。受講者数が二百人や三百人のマスプロ教育の経験を有した者としては感慨深いものがある。

しかしながら、わが名古屋大学において、現在のように受講者数が十二名程度という徹底した少人数教育を行うまでには、かなりの時間を要した。

かなり昔になるが、当初、セミナーを試行的に始めた時期があった。そのときは選択制で、十名ほどの受講者であった。生命に関して深く学びたいという学生の要望があり、あの難しいシュレーディンガーの『生命とは何か』という岩波新書をテキ

ストとして読了し、議論もしたのであった。

二年間は、よき思いでのセミナーであった。ところが、セミナーが必須になり、受講生が二十五名となった。中には、それでもうまくこなした方もおられたようである。だが、人数が二十五名になると、私は何と能力がなにかと思い知らされた。確か、四、五年後に定員が十八名にまで減少したときがある。それでもセミナーとしては成り立たなかった。

定員が十二名になってからは、とても雰囲気は異なり、とてもセミナーらしくなった。だが、全学生に対して必須になると、学生に人気のあるセミナーに学生は殺到し、当然そこは競争が厳しくなる。私のところへ来るのは第二希望以下の学生がほとんどで、かつて経験したような理想的なセミナーは望めない。

なかなか議論になりにくいので、サイエンティフィック・アメリカンの英文や、ステファン・ジェイ・グルドの原著を読み

合わせたことがあった。中には横文字は苦手という学生もいたが、大半はちゃんと読みこなしてくるので感心した覚えがある。

かく言う私も、サン・テグジュペリの『星の王子様』を大学の一年のときに英語で読んだものだった。大学は異なるが、当時は、英語の授業も百人単位で行われていた時代であった。その英語の授業の一つに、J・D・サリンジャーの『The Catcher in the Rye』があった。高校を落第する落ちこぼれ青年の繊細な心理を巧みに表現したものである。

話はもとに戻るが、岐阜看護大学では、一年目はたったの七人を相手に授業を行った。OHCやスクリーンの自動上下装置やらと、機械的設備は整っているのだが、とても使いにくく、スクリーンに映るカラーの色もよくない。セミナーが目的ではないので、人数が少ないとやりにくい。しかも広い部屋である。二年目は受講者が多く五十名を越えた。すると、当然、おしや

べりが出る。待ってましたばかり、『星の王子様』を引用する。星の王子様の住んでいる星はとても小さくて狭いので、バオバブの木が三本大きく育っただけで彼の住む場所がなくなってしまうのである。だから、王子様はせっせとバオバブの芽生えを「芽のうちに摘む」。この話を教訓として、おしやべりも芽のうちに摘む、と言って、おしやべりに対して警告を発するのである。

バオバブは乾燥や山火事に強く、サバンナに生育する。サン・テグジュペリは飛行士としてサバンナで実際にバオバブの木を見たことがあるに違いない。

また、ナチスに占領されたフランスを後に、アメリカに渡ったサン・テグジュペリは、故郷を偲んで夕暮れを見たに違いない。星の王子様が夕日を見るのが好きなのは、彼のそういう思いを映している。

看護大の学生は大半は女性であるが男子もちらほら混じっている。皆、看護師の資格を取ることを目標にしている。一月に卒

業論文を提出し終わると、一般教育科目の試験が待っており、それが済むと、三月末の国家試験に向けて取り組みを始める。

そういう大変な時期に、私の森林に関する授業が行われているのである。それでも出席率は非常に高い。中には内職をしている者もないではない。相手は四年生である。一般教育としては理想に近い。看護大の学長は一般教育にたいへん力を入れている。その点は評価したいが、さすがに四年生の後期に、卒業研究と平行しての授業は心が痛む。

年が明けてからの最初の授業の日、この日は、授業をビデオに撮ることになっている。次年度の学生の授業選択のための資料に使用するという。断ることも出来たが、協力することにした。当日は、私の取っておきのネタがテーマである。花粉分析をもとに、今から千五百年ほど前からアカマツが増加したことが知られている。また、五世紀後半から焼き物の原料としてアカマツ

が使われ始めたことが明らかにされている。場所は同じではないが、自然科学的手法と考古学による燃料の解析から、人間の森林への干渉が強まってアカマツが増大した可能性を強く示唆しているのである。

私は、ビデオ撮影を意識して大上段に解説を始めた。いやにいつもより静かだなと感じて聴衆を見やると、驚いたことに九割近くが下を向いているではないか。おそらく、ビデオは、この授業がいかにつまらないかを示すだけに違いない。私は、思わず、ビデオに向かって叫んでしまった。ビデオで授業の内容が分かるのでしょうかね、と。その日は、私のレポートの提出日であり、あとで分かったことであるが、卒論の提出とほぼ重なってしまったのだ。

岐阜羽島の駅から看護大にかけて、ナンキンハゼの並木がある。緑の葉が赤や黄色や紫と色とりどりになり、やがて葉はすっかり落ちる。そして、掃りの電車から見る外はすっかり暗い。

国際災害年

当地名古屋は、年末の天気予報が見事に外れて三が

日上々の天気に恵まれ、まずは平穏に年が明けた。全国的にまずまずの天気であつたようで、全国の有名神社仏閣の近くで偽一円札が大量に見つかったのが、禍事始め。そんな技術は是非善用して欲しいと思う。どうか今年は無事平穏な年であつて欲しい。

昨年はまさに国際災害年だった。日本国内も大変だった。とりインフルエンザに始まり、多くの鶏たちが哀れを極めた。牛肉のア

メリカからの輸入は停まつたまま。

早くから台風来襲、年間最多の10個も上陸、12月になつてもやつて来ていた。本土にこそ上陸しなかつたが沖縄は大変な目にあつた。台風に伴う雨風の被害は筆舌に尽くしがたい。別に豪雨災害もあつた。

それに10月には新潟県中越地震、かなり局限した地域が繰り返し繰り返しかなり大きな余震に見舞われ、本当に生き心地がもしなかつただろう。幸い、大雪になる前に仮設住宅が間に合つたのがせめてもの慰めだった。しかし、これからのことを考え

るとどうして良いやら、災害にあつた人達の身になってみると暗澹たる気持ちになる。こわれた崖に閉じこめられた車の中から九十二時間後に助け出された勇太ちゃんの記事ぐらいが、数少ない良かったなと思えることだ。車の中で寝ていてエコノミークラス症候群でなくなつた人は気の毒だった。せっかく地震では生きながらえたのに。新幹線が脱線し長い間不通だったのが、死者が一人も出なかつたのは、ほつとした。

暮れにスマトラ沖で起きた巨大地震による津波被害はまさに想像を絶する。今の時点で死者十二万人に達すると言われているが、まだまだ増えそうである。あまりのもののすごさにイラクでの爆弾騒ぎも影が薄いくらいだ。とにかく、何の予告もなく襲う大津波、震源地に近いインドネシアのアチエはともかく、タイ

やインド・スリランカ

等では、地震後かなりの時間があつたはずだから、警報さえ出していれば、人的被害は減らせたであろう。もつとも、家屋その他の被害はテレビで見る限り防ぎようもなかつたかも知れない。防災施設として防潮堤も何もない様子、津波のなすがままだったようで、かなりの奥地、高地にまで達していたそう。まざまざと知る自然の威力。その前で人間のできることは何か、じっくり考えなければならぬ。

この災害の最中にも、反政府勢力とやらの暴動があるという。愚行の最たる戦争をしている連中もこの際じっくり考えたらい。

(T 05・1・3)

センター試験監督

今年1月15・16の両日センター試験の監督をした。

今までにも何回かしたことがあったが、今回は主任でなかったのが、退屈な反面、

気楽であった。この試験を実施するに際しては、その衝に当たる方々のびりびりと張りつめた様子は傍目にもひしひしと感じられる。

一寸の失敗が大きく跳ね返ってくるから、それも当然だけれども、いつもこうだったらどれほど諸事万事がうまくいくかと、あらぬ事を思ってしまう。勿論こんな緊張が続いたらたまらないことは自分の

身に引き当てて考えてみてもよく分かる。

ところで、監督しながら気づいたいくつかのことをとりとめもなく書いてみる。

問題冊子や解答用紙を配るとき、いちいち軽く会釈する受験者がいるが、それを見ていると何となく奥ゆかしい。逆に、答案用紙を回収するとき、その用紙をおく角度まで指定している。集めやすい位置に置くのが大半だけれども、中に、机の真ん中近くにおいて知らん顔、一々手を伸ばして取らなければならぬような位置に置くのもある。この受験生は最後までそうしていた。全然他に対する心配りとい

うことがないのだ。この生徒もどんな育ちをしているのか知りたい。わざわざ取りやすく、又手渡ししようとする受験生もいる中で。

試験中、無意識に顔を触ったり、髪の毛をさわったり、体のあちこちを掻いたりする生徒がいる。むやみに顔を触っている子は見ると変色していたりする。さわるのが癖になっているのだろう。余分なことは一切言っていないことになっているので、気の毒だと思いながら我慢していた。

シャープペンシルでマークシートに印を付けてはいけないと言われているが、やはり数人シャープペンシルを使っていた。これは放置しておけということなので、やはり言ってもやらないのは山々であったが我慢した。まさに、ロボット人間を強いられる2日間であった。

今回、ヒヤリングのテストが

なかったからいいものの、かなり咳をする受験生がいた。咳する人の前の人は気の毒だった。始終、指を折つてならす人もいたが、それくらいはともかく、咳は何とかならないものだろうか。

前には見かけなかったが、リップクリームを塗ったり、目薬を注したりということも当たり前になってきている。ペットボトルを持っているのは普通だが、机上において注意を受けるのもいた。日常がそうなのだろう。授業の時など普通になっているのを見れば。

ともあれ、一生懸命試験に取り組む姿を見ていると、監督は多少は苦痛ではあったが、或る意味ですががしさを感じた2日間でもあった。

(T 05・1・17)

1・2月号 の感想

校舎は地震対策大丈夫？

★地震対策を頑張っていないといけません。50年に一度ですよね。大学の校舎とか大丈夫なのでしょいか。と心配になります。身近に気づく建物の欠陥は、早めにジムなどに連絡することが必要だと思いました。

【もつとキングカズ】

モニターの感知は？

★「大地震に備えて」の記事を読んで：。環境総合棟1階のモニターは昨年の9月以降、地震の揺れを感じていません。あれ、震度：何くらいから感知するんでしょうか？

【BAIKALIST】

明日は我が身です

★来たるべき大地震に備えてのコーナーは大いに参考になりました。明日は我が身ですね。

【EET】

感想読むのが楽しみ

★毎号楽しみにしている「ニュースに二喝」が今号ではなかったのほんのちよつとだけ残念でした。あと、毎号みなさんの感想を読むのが楽しみです。バカ発言やらまじめなのやらしいろ織り交ざっていい楽しいです。今回の感想のせいで「ニュースに二喝」がお休みだったのかもしれませんが：。

【ホントのキングカズ】

クイズのネタが昨年と一緒

★今月のクイズ、ネタが去年と一緒にでしたね(昨年は申)。どちらも減茶苦茶簡単でした。2004年ベストテン・ワード、揚げ足取る様で恐縮ですが、『バカの壁』の出版は2003年4月ですよ。

【だるまおとし】

去年を振り返れた

★2004年ベストテン・ワードを見ていて去年のことを振り返ることができました。

【under7000】

菊山先生の話が懐かしい

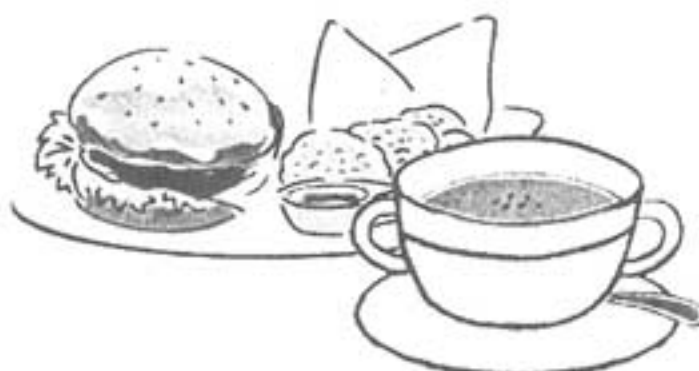
★菊山先生の事が書いてあり10/28の講演を聞いていたひとりなので昨年の事なのに、とてもなつかしい思い出でした。飛田助教の大地震に備えてが身近な問題なのでとても関心深いお話をしました。来月号楽しみにしています。

【福袋】

かけはしの冊子配布賛成

★かけはしの冊子での配布賛成

【ゼロ】



意見と 通信

HPを充実させては如何

★記事というが、HPを充実させては如何でしょうか。外部にとっても新しい情報発信地になれるようにすると良いと思います。

【もつとキングカズ】

▼昨年4月よりページを一新し、新しいコンテンツも入れています。まだまだ不十分かもしれませんが、引き続き生協のさまざまなイベントや情報が届くよう努力します。一度ご覧になってみて下さい。http://www.nucop.jp

【加藤理事室長】

IBカフェにカッススープを

★IBカフェのパンなど毎回利用させていたいています。できればカッススープ類などもあわせて置いていただくとありがたいですが検討ください。

【鈴木照子】

▼ご意見をふまえ取り入れてみたいと思います。

【栗田食堂部長】

日常生活に結びついた記事を

★今回の地震の特集のような、我々の日常生活と密接に結びついた記事をお願いします。

【だるまおとし】

券売機を新札対応に

★早くカード券売機を新札対応にして欲しい。

【ホントのキングカズ】

▼遅くなりましたが、2月1週目でやっと切り替えを行いました。

【栗田食堂部長】

有効期限が切れている

★個人的なことなんですけど、わたしの組合員証の有効期限が切れてるようなんですが更新は必要でしょうか。【えすばあー】

▼1999年に従来カードから更新をしていただいた際に、一時期だけ有効期限を記入しましたが、現在は有効期限の設定があるのは、クレジットカード一体型のコバカードのみです。塩ビ製のカードで、表面もだいぶん擦れてしまっているようにしたら新しいものと交換します。で、北部厚生会館2階組合員コーナーまでお越し下さい。現在は有効

期限の記入はしていません。名古屋

大学に所属し、出資金をお預かりしている限り、生協では組合員の方ということで台帳管理をしております。

【加藤理事室長】

生協の風邪対策は大丈夫？

★風邪対策について特集を組んでほしいです。特に人から人への感染をどのように防げばよいのか知りたいです。大学生協のように食品を扱っているところでは、職員の風邪の蔓延は食品の安全性に関わる重大問題ですから、生協としてどのような風邪対策を職員に行っているのか記事にしてください。【EEE】

マスクの着用を義務づけて

★先日、北部生協の食堂で働いている人の中で、作業をしながらコホコホと咳をしている人を見ました。私はこれまでに、飛沫感染を防ぐために食堂を働く人たちはマスクの着用を義務づけるべきと意見を何度もお送りしてきましたが、意見は無視されて何ら改善が見られません。それどころか上記のように風邪に

感染している職員までマスクを着用しないという実態があります。これでは生協食堂は食べ物を扱う資格がないといわざるを得ません。改善を望みます。

【EEE】

▼職員に対しては職場の朝夕で手洗いやうがいなどの注意を促すことはしていますが、風邪対策として特別に指導をおこなっているわけではなくそれ以上のことは本人の自覚に任せています。ご指摘のように、職員の健康状態によりポジションの変更や仕事の自重も行うべきものと考えます。ご意見については店長会議でもとりあげ店舗での対応を急ぎたいと思います。【栗田食堂部長】

閉店をもう1時間遅くして

★理系カフェの閉店時間をもう一時間遅くしてもらえると非常にうれしいです。理系地区は近くに飲食店がないことから、理系カフェに夕食を食べに行くのですが、8時閉店では早い気がします。

【ムコ】

▼理系ショップのご利用が引き続き増えているのに対し、理系カフェテリア食堂については夕食のご利用が

伸び悩んでいます。現在の営業形態が理系地区の皆さんの生活スタイルに合致しているかどうかについてご意見を伺う中で営業時間についても再検討したいと考えますので回りの方々のご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。【栗田食堂部長】

夕方弁当を割引して

★理系コンビにでも夕方くらいにお弁当の割引を行ってほしいです。

【under7000】

▼ご意見ありがとうございます。パンおにぎり等の割引は賞味期限の関係で予定した発注数との関係で閉店までに完売できない時に少しでも廃棄ロスを少なくするために行っています。弁当につきましても同様の扱いを行っています。但し、あまり早い時間に完売させることでは組合員の皆様の利用機会も少なくなることに繋がってしまいますので、多少多めに発注を行うようにしてまいります。割引が毎日発生するかはわかり兼ねますが、その際はご利用お願いします。【波多野購買部長】



堀江さんは口に衣
着せぬ物言い、痛快
このうえないのだが、
今回は違和感がある。
日本放送の株取引で
ある。

時間外取引という、
いわば想定外の商
行為なのだが、なんだ
か松井が全打席敬
遠されたような、い
やな気分になった。

僕は法律家では
ないが、少なくとも
今回の取引がたと
え法律違反ではな
いとしても、法律本
来の趣旨とは明らか
に異なる行為である。
法律は人間が作るも
のであるから完全で
はない。どこかに抜け
道のようなものはあ
る。しかし、その抜け

道を、みなが通ることになれば、
法律を作った本来の趣旨とは反
した事態が広がる結果になる。
スポーツが清々しいのは、一
定のルールに従い、正々堂々と
たたかうからである。ルールに
不備があつたとしても、あるいは
自己に有利な展開であつたと

この感動は、応援するチーム
が勝つことよりもはるかに大き
なものとなる。もしひいきの
チームがあくどい反則や相手の
尊厳を傷つける行為によつて勝
利をもたらしたとしても、その
ような勝利には何の感激もない。

ライフドアの

日本放送株取引に思う

全学技術センター 河合利秀

しても、相手のアクシデント時
にはプレーを中断したり相手に
有利な行為によつて、対等の関
係を維持しようとする。これら
の行為が互いの瞬間の了解のも
とに行われるからこそ、私たち
は感動するのである。

今回の株取引は、そうしたア
ンフェアな行為であると思う。
お金があれば何をしてもよいと
いうことにはならない。たとえ
相手があくどくてずるくても、
正々堂々と戦うことこそが、周
囲の賛同をえるのではないだろ

うか。

いまやインターネット
は新しいメディアの代表
である。旧来としたテ
レビ資本には辟易してい
る。であればこそ、道は
遠くても、インターネット
ト企業の先鋒であるラ
イフドアにはそのよう
な方法を選んでほし
かった。

放送は公共性が強
く、一企業や会派に
よつて占有されること
はよくない。しかし現
状は企業の儲け本位の
運営で放送の公共性は損
なわれている。今回の事
件が、放送や情報メデ
アの公共性が高まる方向
の議論になることを期待
して止まない。

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部
センター _____ 専攻・課
学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

.....山.....折.....り.....

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 258 号

クイズのこたえ _____

☆今月号を讀
んでの感想

☆送別特集を讀
んでの感想

☆記事にしてほしいこと。生協へのご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をきれいに記入してください。

CO-OP QUIZ

No. 258
2005年3・4月号

縦と横に書かれた数字にしたがって
マスをつめていくと絵（または文字）
が現れます。それは何でしょう。（ヒント＝「いよいよ開幕です」）

クイズが解けたらぜひ応募してくだ
さい。クイズの嫌いな方は、ご意見だ
けでも歓迎します。

前回の正解は「酉」でした。解き
方がまだわからない方は、解答の絵
の数字と黒マスの関係をよく見てく
ださい。

あなたもLogicの問題を創作（出題）
してみませんか。問題の投稿も歓迎し
ます。手描きでもOK。採用の方には
図書券を進呈。



前回の
問題



応募要項

- 締め切りは4月18日
- 発表は本誌、5・6月号
- 正解者（但し、①組合員
②当選後）加入も可、
- ②意見・感想記入者の中
から、抽選で5人の方
に図書券をさしあげ
ます。
- 生協への意見・要望を
どしどしお寄せ下さい。

第257号の当選者
・応募総数 …… 10人
・正解者数 …… 10人
・当選者（敬称略）
安井幸夫（理学研究科）
辻弘晃（理学研究科）
大井田富世（工学部）
村上和隆（環境学研究科）
佐々井崇博（環境学研究科）
以上の5人の方に図書券をお送
りします。

教職員委員会活動日誌（2005年1・2月）

月 日	事 項	場 所
1月 4日(火)	新年職員集会	北部食堂ホール
7日(金)	1月度第1回教職員委員会	ゆ〜どん
11日(火)	賃金制度プロジェクト	ゆ〜どん
12日(水)	中西久枝国際開発研究科長インタビュー	国際開発研究科長室
13日(木)	1月度常任理事会	ゆ〜どん
18日(火)	新学期プロジェクト	ゆ〜どん
20日(木)	1月度理事会	フレンドリィ南部
22日(土)	全国理事会	東京・杉並
23日(日)	全国委員会	東京・杉並
24日(月)	1月度第2回教職員委員会	IBカフェ
27日(木)	北部改装プロジェクト	ゆ〜どん
3月 2日(水)	名古屋大学平和憲章制定18周年記念企画 憲法講演会「今こそ憲法・教育基本法に根ざした 教育改革を」	IB電子情報館
3日(木)	2月度常任理事会	ゆ〜どん
7日(月)	2月度第1回教職員委員会 賃金制度プロジェクト	IBカフェ ゆ〜どん
10日-13日	初心・初級スキー教室は参加申し込みなく中止	
17日(木)	2月度理事会	フレンドリィ南部
19日(土)	東海地域センター理事会	
21日(月)	2月度第2回教職員委員会	IBカフェ
22日(火)	新学期プロジェクト	ゆ〜どん

名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052>781-1111（内線 7540）

- 書籍(和書・洋書・雑誌)に関するご相談は
北部書籍(内線 7544) 南部書籍(内線 7551)
医学部書籍(内線 5208)大幸書籍(内線 5552)
- 文具・事務用品に関するご相談は
北部購買(内線 7542) 南部購買(内線 7549)
医学部購買(内線 5209)大幸購買(内線 5552)
農学部購買(内線 7557)
- レストラン「花の木」(内線 7605)
- 旅行(国内・海外)・宿泊に関するご相談は
北部旅行・サービスセンター(内線 7543)
南部旅行・サービスセンター(内線 7550)
医学部旅行・サービスセンター(内線 5213)
- 印刷とネットワークに関するご相談は
印刷・情報サービス部(内線 7552)
- パーティー料理・弁当に関するご相談は
弁当部(内線 7553) 理系食堂(内線 7555)

贈る言葉

福家 俊朗

(名古屋大学消費生活協同組合・理事長)

このたび退職される皆さんに、永年にわたる名古屋大学生協へのご協力に感謝しつつ、謹んでお祝い申し上げます。

ご承知のように、名古屋大学は、昨年4月にその他の国立大学とともに法人化されました。そのたった1年の間に、外観はともかく、内側から大学の風景が一変しようとしています。そういう時期に退職される皆さんは、これからの大学と生協の行く末を案じて後ろ髪を引かれる思いではないかと拝察いたします。

しかし、このような動向は大学に限られたものではありません。いわゆる国家を後景に退かせる振りをして公のほんらいの役割を軽減（規制緩和）し、弱肉強食の競争社会を創り出そうとしています。21世紀に生きようとしている私たちは、すべての生活領域において、いまこそ協同という相互助け合いの意義を改めて考えてゆかねばならない時代に面しているといえるでしょう。

そういう時代において、その協同の一組織である名古屋大学生協は、「大学・学園生活に広く深く根ざした」生協づくりの方針のもと、大学との建設的関係をつくり、福利厚生の実、全構成員に依拠した事業の発展をはかっていく必要があります。そのためにも、組合員ひとりひとりが出資し利用するだけでなく、運営することで成り立っている生協の健全な経営と、「よりよい生活と平和のために」組合員の諸要求に誠実かつ総合的に応えてゆく不断の経営改善努力が不可欠となっています。

「贈る言葉」、というより誓いの言葉になってしまいましたが、残された私たちは、皆さんが築き上げてきた名古屋大学生協の50年の歴史に確信をもって、さらに発展させて行く所存です。これからも健康で、いっそう豊かで文化的な新しい生活を楽しむことができますよう祈念しつつ、名古屋大学生協へのこれまでと変わらぬご支援とご声援をお願いする次第です。

(ふけ・としろう)

食の安全と安心

宮田 正 (生命農学研究科・教員)



近年、健康志向の向上に伴い、食の安全と安心に強い関心が向けられている。毎日食べている食品は安全なのだろうか？ この何年か、全学の学生を対象としたセミナーなどで、農薬残留について言及することがしばしばあり、食の安全と安心、特に安心についての理解を得ることの難しさを身にしみて感じている。わが国では、新農薬が誕生するまでには、作物・土壌残留試験、安全性評価試験など多くの試験を行い、農薬登録の申請、登録認可を取得し、製造販売される。新農薬の発見から、実用化までには永年の年月と膨大な経費を費やしている。特に、安全性評価については、実験動物を用いた長期毒性試験及びその他の毒性試験結果に基づき、農薬安全性評価委員会により「無毒性」（その動物が一生にわたり摂取し続けても何らの影響も及ぼさない最大の薬量）を設定する。さらに、動物と人間との種差及び個人差等を考慮し、「一日摂取許容量」(AID, mg/Kg)を求める。このAIDに人の平均体重（日本人では50Kg）を乗じたものが、その人の「1日当たり摂取許容量」（毎日、一生にわたり、摂取し続けても何ら影響を及ぼさない量）である。さらに、その農薬のAID及び農作物の1日

摂取量、農薬残留に関するデータを基に、残留農薬の総摂取量がADI以下になるよう、残留に関する基準が設定される。

しかし、講義後のレポートなどでは、依然として、残留農薬への安全性に疑問を訴える意見が思いの外多い。この中には、該当の講義に欠席した学生諸君もいるかも知れないが、依然として残留農薬等に対し不安を抱いている学生諸君が多いことを示している。農薬の使用基準を守り栽培された農産物からは、残留基準を越える農薬が検出されないことはいくつかの調査で確認されている。しかし、2001年から2002年にかけて発覚した、いわゆる「無登録農薬」（過去に登録はあったが、その後失効したもの、国内での登録はあるものの、当該作物には登録がないもの、等）の使用により、多くの農産物が廃棄処分される事件が発生した（当時は、農薬の使用者責任は明確ではなかったが、昨年の農薬取締法の改正により、使用者責任が明文化された）。また、多くの農産物や食品を輸入に頼っているわが国としては、輸入農産物等の残留農薬問題も影響しているのかも知れない（この点に関しては、来年度の制度改定に向けて準備が進んでいる）。（みやた・ただし）

退職にあたって一生協の思い出

長谷川 勝男（多元数理科学研究科・教員）



1. はじめに

名古屋大学が多元を立ち上げた10年前に東北大学から移ってきて以来、炎暑と人情あふれる人々に魅せられているうちに、いつの間にか退職の時となりました。しかし、振り返って見直すといくつものハイライトがあります。その中から思い出の深いエピソードについて手短かに書いてみます。

2. 書籍部の思い出

名大に来るとすぐに研究室の立ち上げのために書籍部に行き本をたくさん買いました。多元の図書室も数学関連の蔵書では有名ですが、私の好みは神経の本とか哲学書とか認知系の本なので北部にはあまりありません。それでも手配をしてくれて、洋書もたくさん購入しました。雑学の本もたくさん読んでいるうちに分かってきたことがあります。ひとつは、洋書の場合、日本語訳が出版されてから目にとまるわけですが、意味が通じない場合が多々あることです。原書を読むとすんなり意味が通ります。専門分野でない人の訳は直訳になりがちで、注意が必要です。もうひとつは、たくさん本が出回っていますが、帯書きのほとんどが誇大広告です。しかし、言葉の意味がこれほど分からないものだと驚きでした。同時に、これを数学で調べたいという気になりました。今は分かります。とにかく本についてなんでも話ができるのが素晴らしいと思います。

3. 食堂の思い出

はじめのうちは花の木レストランで毎日先生方と昼食をとっていましたが、退官されてからは、大勢の学生に混じって様子を見ながら食べていました。けれども長い行列のため次第に食堂を敬遠するようになり、理カフェ横の売店で弁当を買って来てオフィスで食べたり、1Bカフェを利用したりと様々です。そのうちに、昼休み時間にゴルフの練習をするようになり、その後で時間をずらして行くと混んでなくリラッ

クスして食事ができるようになりました。レジで挨拶をする人があまりいないのですが、私は大事なことと思っています。ほんの一言の会話で、食事がさらに美味しくなるし消化もいいのにといつも思いますが、私だけいい目に会えた感じです。

4. 購買部の思い出

コンピューターとソフトは山ほど買いました。修理もたくさんしましたが、どんな時でも、親切に丁寧に説明してもらい、勉強になり参考になることがたくさんありました。ひとつだけ、テニスのボールが置いてないのが東北大の売店と違います。自転車屋さんとも仲良くなり、仕事に熱心で誠実なのに感心しています。

5. 博物館コンサートの思い出

地下鉄が開通する直前の前夜祭のひとつとして、博物館でコンサートを開いてマネージャーと演奏の両方をこなすことになった思い出は、飛び抜けて印象が深いものです。大学と生協の両方からの後押しがあって盛大なコンサートになりました。会場に入りきれないくらい大勢の人が聴きに来てくださり、演奏者の皆さんともども、音楽を楽しんだわけですが、いろんな方々に大変お世話になりました。機会があるのならばイベントを企画することが大事だと思います。本当は、できるだけ機会をつくるべきだと心底思います。本当は皆さん、お祭り好きだと思いますけど。

6. おわりに

虹の集いや赤ちょうちんなど、楽しい思い出がたくさんありますが、雨だったり寒かったり、テントの中では客も店の人も大変です。広い建物が使えるといいのにとおもいます。お店でも大勢の人が働いていますがみなさんよく努力されていて信頼感があります。これからもお元気で頑張ってください。いろいろとお世話になりました。（'05年2月22日記）

（はせがわ・かつお）

頑張れ！名大生協

田中 宣秀（教育発達科学研究科・教員）



わずか3年半の短い在職期間でしたが、大変お世話になりました。また、生協の職員の皆様には色々と苦言を呈したこともありましたが、大いに頑張ってくれたという情熱からだと思っていただき、どうかご容赦のほどお願い申し上げます。

でも、最後にもう少し言わせてもらいます。もう少しお世話になりますので・・・

（1）着任早々講演をさせられたこと

教育学専攻恒例の“レク”が半田で行われたときのことで、お酒の席で、「生協の商品は市販のものより高く、サービスが悪い！」と言ってしまったことがあります。小職の隣に座っておられたのが榊名誉教授（当時、名大生協の理事長）で、先生から、「第一印象が大切！生協では是非話して欲しい」と頼まれ、講演をしたことがあります。何をしゃべったか、もう忘れましたが、終了後に先生とカラオケに行ったことだけ覚えています。今は、サービスが大幅に改善され、なくては困る大きな存在の生協ですが、まだ気がつくことがあります。例えば、電気製品や大型の備品等は生協の職員が荷解きして配達などせず、直接業者に納入させて、据え付けまでさせた方が良く思います・・・さてどうでしょう。

（2）味とサービスの「レストラン花の木」

「花の木」は料理の味、見栄えともに良く「唯一お客ができる店」だと大変気に入って

います。名大にも法人化に伴って学外から種々のお客がおみえですが、あのレストランは良い思いでばかりです。事前にお願ひすれば土曜でも学会等の打ち上げはできますし、持ち込みができるのも嬉しいことです。かって、学外から朝早く企業のお客をお迎えするとき、研究室においでいただくわけにもいかず、コーヒーをお出しできる場所として「花の木」に早く開けてもらったことがあります。職員は大変ですが、大変助かりました。こんなサービスの良いお店が各所にできることを祈っています。

（3）お世話になった学生の就業体験

学生のインターンシップ先として生協にお願ひしているのは、大学広し、といえども、慶応大学とわが名古屋大学ぐらいだと思います。これまで二人の学生を派遣しましたが、学生の見目は鋭く、送り出す教員・生徒の側も受け入れる生協の方も勉強になったと考えています。3年前のことですが、インターンシップの体験報告会で、5分の持ち時間のところ15分も熱弁を振るった学生がおりました。体験報告を聞く企業など関係者の人も報告会をとり仕切る教員側も真剣で熱心な報告と時間超過をどう判断するか、侃々諤々の議論をしたことがあります。勿論、その学生には優をあげました。（たなか・のりひで）

“マドンナ”と過ごした25年間

—名大生協北部書籍部での交流記—



北川 勝弘（農学国際教育協力研究センター・教員）

私は名古屋大学に35年間お世話になりましたが、研究に疲れるとよく生協北部書籍部へ足を運んで本の背文字を眺め歩き、溜まったストレスを発散させるのを習慣にしてきました。そこで本稿では、私の北部書籍部との関わり的一端を書き留めます。

1970年代の終り頃から10年余、北部書籍部には3人の女性専従職員（Mさん、Dさん、Nさん）がいて、お客にいつも親切に対応してくれるので、ファンが大勢いました。私もその一人でしたが、3人のなかでMさんは一番姉貴分で私と年齢が近かったため、楽しいおしゃべり仲間でした。

私が彼女と最初に言葉を交わしたのは、もう25年以上も前のことです。彼女は当時、理系の一般書を担当していました。北部書籍部内に設けられた“自然”関連の書籍コーナーに、彼女が書籍カタログを調べて取り寄せた“自然”や“環境”関係の書籍の選定センスは抜群で、私の購買意欲をそそるに十分でした。「素敵なセンスですね」という意味の褒め言葉を私が彼女に言ったのだと、その日のことを彼女は今でも覚えてくれています。

そのMさんが、いつの頃から“私のマドンナ”になったのか、今では定かではありません。ふと気がついてみたら、彼女は私にとって職場で“無くてはならない大切な

存在”、気が置けない“旧友”になっていたのです。

彼女は現在、洋書を担当していますが、研究室をまわって先生方と気さくにおしゃべりを交わしながら、相手の研究上の関心事や最新の話題などを記憶しておき、それらに関する新刊書が発行されるとすぐ、当該の先生方に紹介するそうです。私も幾度となく彼女のお奨め本を購入して、研究面で啓発されたことがありました。彼女は、おしゃべりが上手なだけでなく、聞き上手でもあるわけです。

ところで、17年前にNさんが生協を退職されたとき、私はMさんとDさんの粹なはからいで、生協職員によるNさんの送別会に特別参加させてもらいました。また、その数年後にはNさんの結婚式にご招待いただき、Mさん、Dさんと一緒に三重県の山あいの町へ出かけたこともありました。今では、いずれも懐かしい思い出です。

私は今春、名古屋大学を退職しますが、生協北部書籍部が、名大内の読書好きな教職員や大学院生・学生の心のよりどころとして、これからもずっと発展を続けられんことを、念願しています。また、私の名大での生活に豊かな彩りを添えてくれた“私のマドンナ”に、心から感謝いたします。

（きたがわ・かつひろ）

基礎科学の研究・教育に関わって45年

金丸 信明（理学研究科・教員）

45年の内訳はT大(B,4)+B研(M&D,5)+H大(T,3)+米W大(R/T,3)+R研(R/T,3)+N大(T,27)です。無論最後は名大に教員として27年間在職の意です。又教育は双方向です。(奇跡でも起きない限り)4月から年金生活に入る事になるでしょう。(土壇場に加入を強いられた雇用保険の意味については今日現在不明です。)辛うじて年金・介護に関しては食い逃げが出来そうです。(しかし万が一長生きでもすると、路頭に迷うのではという一抹の不安があります。)

多忙であるにも拘らず私がこの文章を書く気になったのは、正にこの事に関する事を言いたかったからです。センター試験に象徴されるところの中等教育のことです。着実に進行して来た学生の質の低下のことです。(成績について言えば、2つの正規分布関数で表されるという事実です。完全な逆転現象が達成されています。)受験産業との戦いに敗れ続けてきたからでしょう。(受験産業界自身もこの事に気付き始めているようです:補習授業・大学院予備校等々。大学を潰してしまっただけは元も子も無いからでしょう。)大学も被害者顔をしている事は許されません。中等教育の教員を送り出している張本人なのですから。(端的な例としては、物理を履修しないで理系に進学する学生が未だに絶えないことがあります。)最も重大視したい事は、学生の中に蔓延している知識が全てであるという錯覚の事です。Wisdom is predominant over the bunch of scrappy knowledge.これが学生実験のガイダンスの際に浮かんだphrase。(出典不明ですが今の学生に噛み締めて貰いたい文章です。)

学生諸君の生態で気付いたもう1つの面は幼児化・画一化です。教育の目的の1つは個性を伸ばす事だった筈なのですが...。例えば車内での会話はまるでトークショーを見るようです。(ボケ・突っ込み、高め合う為では決してない!)20年以上前にはネアカ・ネクラという言葉が流行りました。(私の気付いた現象を列挙しま

しょう:ルーズソックス、茶髪、(男の)眉カット、タメ口。最近の「負け犬」は正にその延長にあるのでは。)

両輪の片割れである研究についても述べさせていただきます。教育に時間を取られて研究が出来ない等という言い訳は以ての外です。大学に於ける研究は(公開さるべき)教材でもある(ことを要求されている)はずです。ここでも上記のphraseが生きてきます。私が(41-3=38回)出席(発表)し続けてきた討論会での最近の風景です:1ヶ月以上前には要旨のdownloadが可能なにも拘らず、机の上に有るのはプログラム冊子の方です。討論に参加しているのは十数人で他の百人余は観客に過ぎないようです。(論文を読まずに済ませる?短期目標(論文の数)に捉われ長期目標を見失っているかのようです。)もう1例を紹介しましょう。ある論文の引用文献中に「ミスプリ」を見つけました:私が60年代のものと記憶している論文が1999年と表示されていました。実はこれは私の勘違いでした。もう一つの引用文献からの「完全なる」孫引きだったからです。良く見ると論文のスタイルもそっくり(異なるのは物質名だけ?)でした。これでは独創的な研究(者)は育たないでしょう。

私にとって、研究室を去ることは百以上のファイル中に収めた自身の書き込み入りの数千の文献との別れを意味します。(自宅には収納スペースがありません。これは、大部分は時代遅れのものであるとはいえ、当時の私の「想念」を呼び戻す手掛かりを失うことを意味します。)寂しい限りです。これに関連しての後輩への忠告:大切な資料の貸与を人(ボス)から求められた時にはコピーを作って渡すべし。(何度も苦い経験をしています。)

写真についてはご容赦下さい。多大な犠牲を払って勝ち得た(?)「自由」(気候)を死守したいからです。(かなまる・のぶあき)

動物との出逢い、人との出逢い

後藤 明光（生命農学研究科・技術職員）



この世に生をうけて60年、さあこれからだという気持ちの時に退職を迎えます。若い氣でいますが、やっぱり60なのですね。

昭和49年に採用されて30年、長いような短い30年でした。私の職場では牛と山羊を飼っており、動物たちとともに過ごした年月でした。人間関係で少し悩んだこともありましたが、私の周りにはいつも牛と山羊がいましたので、よく彼らと話をしました。お前今何が言いたいのか？ 腹が減ったのか？ 女が欲しいのか？ 牛関係うまかいのか？ 私なりに勝手に話すのです。特に朝一番が牛も山羊もよく話してくれます。子供の頃から牛飼いに憧れていた私にとっては、好きな動物たちと接しながら、小さいながらも草地があり牧夫気分が働くことができた30年でした。

そんな動物たちとの出逢いは私にとって大変素晴らしいものでした。もうすぐお別れですが、私の家は近い所ですのですぐに会いにこられることでしょう。それに私も

猟をやるための犬が2頭、ポニーが3頭います。死ぬまで動物とは縁が切れないでしょう。

動物たちとの出逢いとともに、人間の出逢いも沢山ありました。私は運が良いのか、本当に良い人たちとの出逢いがあり、これが30年勤めた中での一番の宝物です。特に技術職員仲間や学生とはウナギ釣り、ハチ追い、山菜取り…とよく飲んでよく遊びましたね。金のかからない安い遊びばかりでしたが、遊びの中からこそ良いアイデアが産まれるとこの歳になっても思っています。

これからの余生は好きな釣りや狩猟をやって、知らない土地で新しい地酒と人間に出逢い、あわてずのんびりとやっていきたいと思います。やはり人生これからだと思います。

動物たちや人々との素敵な出逢いを数多く得られたこと、本当に感謝します。長い間本当にお世話になりました。ありがとうございました。（ごとう・あけみつ）

名古屋の生協の思い出

北原 淳（経済学研究科・教員）

名大では定年前の6年半を過ごしたが、生協には大変お世話になった。とくに、南部生協の新刊書籍や専門書のコーナーは小生にとって大好きな立ち読みコーナーであり、独特の自己空間を作れて落ち着いた。また関西の自宅との間の新幹線回数券の購入でも大変お世話になった。昼、夜のキャンパス各所の生協食堂はもちろんである。このようにお世話になりながら、ずるずるして、北部生協に手続きに行かないまま、結局、名大生協の会員にならずに退職と相成った。しかし、実は前任校の神戸大学の生協はそのまま会員であり、非常勤等の際にはよく利用してきたが、こちらからは、先日、退職会員に対する継続希望の問い合わせがあった。

大学キャンパスにとって生協は不可欠の空間、組織である。おそらく退職後もずっと思い出すのは、南部生協の書籍部でのほっとする立ち読みのひとときであり、食堂でのコーヒーのひとときであろう。さて、

名大生協は神戸大生協と比べて遜色ないので別に不満はなかった。しかし、地域生協はどうも問題がありそうだ。神戸というところは、とくに近郊はそうだが、買い物はすべて生協でするのが当たり前の土地柄なので、戻ったときは地域生協を恒常的に利用する。ところで、これらの神戸の地域生協と比べると、名古屋の宿舎の近くの某生協は、はっきり言って、品数も少なく、値段も高く、閉まる時間も早く、全然レベルが違う。6年前に名古屋に来て、当然のごとく地域生協の会員となったが、一番がっかりしたのが地域生協のみすぼらしさであつたかもしれない。結局、夜遅くまで開いていて、圧倒的に品数も多く、しかも安い民間の某大スーパーについで走ってしまう。

大学生協はキャンパスという地の利があるから地域生協とはちがう。学生にとっては教室以上に親しい存在かもしれない。しかし、他生協との比較にも努力して、競争力にも目を配ってほしいと願う。

（きたはら・あつし）

言葉をまなぶ楽しみ

小栗 友一（国際開発研究科・教員）



私は約40年ドイツ語を教えてきたが、その間「生徒」としても名大で学んだ。語学の「全学向け授業」である。まず、フランス人の会話クラスに出た。生のフランス語が快かった。テストがあるとすぐに正解が配られ、ミスを理解することができた。次の時間に答案が赤字入りで返された。このようなきめこまかな指導を自分の授業に取り入れようとしたが、出来たとは言いがたい。普段は教える側に立っているのが気がつかなかったが、生徒側に立ってみると正しく答えることの困難が身にしまった。

これは1学期だけであったが、朝鮮・韓国語の方は1年半学んだ。最初ハングル（文字）の練習をするのだが、漢字の学習を思い出して懐かしかった。英語、ドイツ語、フランス語では主語－述語が文の構造をなしているのに、文は述語だけあれば成り立つ、しかもイタリア語のように主語がなくとも動詞の語尾で人称を示すというわけでもない、その点で日本語と同じ言語が身近にある、日本語は特殊な、孤児のような言語ではない、と知って気分が爽快になった。

在日韓国人の先生が、戦争中の日本のこ

とを「日帝」というのにギョッとした。韓国側からすれば勝手にやってきて支配した国であり、大日本帝国と名乗っていたのだからそういわれても当然かもしれないが、ショックだった。このような衝撃を多くの人にも味わってもらいたいと思った。予習して授業に臨み宿題を提出し、期末試験も頑張ったが、優がもらえず成績は良どまりだった。次には優をとってやろうと思った。次の学期には同じ先生のまた同じレベルの入門授業に参加した。今度は在日韓国人の事務の方を誘って参加した。教科書は変わったがレベルが一緒なので学ぶことは前とほとんど同じだった。今度は楽について行けることができ得意だった。その次の学期は日本人の先生に代わった。ネイティブのように上手な発音をされた。TAと楽しそうに授業をされ、その気持ちが生徒側に伝わった。有名な「故郷」や「ジングルベル」を一緒に歌って楽しかった。授業でドイツ語の歌を歌う自分のやり方に自信を持った。古典ギリシア語の授業にもでたが、全ては楽しい思い出である。（おぐり・ともかず）

名古屋大学に在職中の名大生協の思い出



小倉 豊（医学部・医学系研究科・事務職員）

1. 生協食堂でお世話になった思い出について

最初に名大生協を利用させていただいたのは、昭和45年頃から事務局の管理課に勤務していた頃昼食は、ほとんど同僚3-4人で、理科系食堂のA定・B定・C定…等を毎日いただきました。また、当時は独身であったため、仕事が定時で終わった時などは、時々夕食も利用した思い出があります。

2. 生協主催の行事に参加をさせていただいた3件の思い出等について

1) 昭和46-47年頃と思いますが当時、ボーリングが流行の最先端で、生協の主催のボーリング大会を地下鉄東山公園駅のビルのボーリング場で開催し、参加料金は覚えていませんが、参加賞のコープ石鹸1個をいただいた憶えがあります。

2) その後ボーリングブームは去り、はっきりと年度は覚えていませんがその4-5年後と思いますが、生協主催で蛭ヶ野高原へテニスの合宿（2泊3日ほど）に、一家4人の家族で参加しました。当時、我が家でテニスをする者は私のみで、当然このテニス教室にも私1人が参加し、子どもと妻は、他の組合員の家族の子ども達と、トン

ボ取りやテニスコートに隣接した公園で遊んでいたと思います。

3) テニスの合宿から2-3年後と思いますが、静岡県細江町にみかんの視察だったと思いますが、各自のマイカーで現地集合し、みかん農家のご主人に、「市販されているみかんは、農薬による消毒が出荷直前まで行われていること、ワックスがけされているため、皮膚にボロボロができること等」の説明を受け、その後みかんを購入する時は、生協の斡旋する安全な細江町のみかんを購入することを心がけるようになりました。

以上、大学に就職してからコープ商品等の安全性について学んだこと等、色々生協のお世話になりました。未だ沢山の思い出はありますが、最後に1つ要望をします。現在、保健学科に勤務していますが、大幸地区の生協の売店は小さくて商品も少なく、食堂のメニューの数も少ない原因は、東山地区等に比べると職員数・学生数が少なく利用者が少ないためだと理解はできますが、今回、生協の店舗・食堂がある、大幸厚生会館の大規模改修を「平成18年度営繕要求」しますので、この機会に東山地区と同等の利用ができる店舗・食堂の設置を要望します。（おぐら・ゆたか）

名古屋大学の思い出

大森 和彦（工学研究科・教員）



ついに定年退職する日が来てしまいました。私には大学を中心として、楽しかったこと、感激したこと、印象に残ったことがいっぱいあったような気がします。これらの思い出のうちのいくつかをかいつまんで述べます。

大学職員となって学んだものは自由と平和と平等と民主主義という言葉であろうかと思います。職員になってから、3.1ビキニデーに参加しました。これはアメリカによるビキニ環礁での水爆実験により、日本のマグロ漁船が放射能で汚染され、汚染されたマグロが家庭の台所に入ってくるということで日本中が大騒ぎになった事件から始まっています。半年後、乗組員の一人は無くなってしまいました。日本はヒロシマ、ナガサキに続いて、またも原水爆の犠牲者を出してしまいました。原水爆禁止運動が日本全国に燎原の火のように広まりました。原水爆禁止世界大会や3.1ビキニデー集会への参加は平和運動について学習する良い機会だったと今では思っています。

職員組合の青年部の行事ではキャンプや登山、スキー行事などいろいろな行事に参加できました。スキー行事はアフタースキーの企画がいろいろあって楽しいもので

した。名大平和憲章の取り組みでは名大職員合唱団として参加し、「大地賛頌」を歌ってすばらしい和音を奏でられたことが印象に残っています。

1985-6年頃かと思いますが、名大職員ワンゲルに参加し山に登る機会を得ました。北は利尻富士、南は屋久島などの多くの山々に入りました。また、この頃と前後して、犬山10キロマラソンから始まって、学内駅伝やいくつかのマラソンに参加しました。さらに保体センターで行われるテニス、ゴルフ、バトミントン、ストレッチ体操の講習会や、青年部や生協教職員会のテニス行事に参加し、健康作りのための機会と仲間が得られました。

名大生協の思い出として何があったかと問われると、食事は生協にお世話になりっ放しで、食堂へ行くことが日々の生活行動の中に必ず組み込まれていました。書籍、購買、めがね、時計、写真についても良く利用し、衣類などは生協祭りや豊講セールで間に合わせていました。生協教職委員会の行事ではスキー、テニス、りんご狩り、産地、工場見学などに参加して、生活の上で役立つ知識が得られることが多かったと思っています。

（おおもり・かずひこ）

教職員・院生版生協だより

送別特集号

発行 名大生協理事会
編集 名大生協教職員委員会
☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111

かけはし

それぞれの思い出

—退職される教職員の方々から—

この春もまた、多くの教職員の方々が定年（停年）を迎えられ、名古屋大学を去って行かれます。今年退職されるみなさまは、国立大学が法人化されて以降、最初の退職者ということになります。長い間、ご苦勞様でした。みなさまにとって名古屋大学で過ごした年月は、人生の貴重な時間であったことでしょう。

私たちにとって初めての企画でしたが、今回、みなさまの名古屋大学で過ごした「それぞれの思い出」を、寄せていただくことができました。みなさまの貴重な体験を教訓にさせていただきます。ありがとうございました。

なお、私共の「寄稿のお願い」の時期が遅くて、今回「時間がないので寄稿を辞退する」旨連絡をいただいた方々が多くいらっしゃったことを付記します。ご迷惑をおかけしました。

2005年3月

名古屋大学消費生活協同組合・教職員委員会

退職されるみなさまへ

長い間名大生協の組合員として生協をご利用・ご支援いただきましてありがとうございました。みなさまからお預かりしています出資金を活用して生協の運営を行ってまいりました。

名大生協では、退職されるみなさまに「名大生協後援会」への加入・移行をお勧めいたします。後援会員は、退職後も引き続き生協のお店や各種サービスをご利用いただけます。詳しいことは、下記組合員コーナーまでお尋ねください。また、名大生協を脱退されるみなさまには出資金をお返しいたします。

「後援会」への加入、および脱退の手続きは、お手数ですが印鑑と組合員証、また、「出資金預り証」の発行を受けた方はそれも一緒に持参の上、組合員コーナー（北部厚生会館2階、内線7540）までお越しください。